

大阪成蹊

学園広報誌

WAVE

No.43

2024年2月10日発行



学校法人 大阪成蹊学園

大阪成蹊大学
びわこ成蹊スポーツ大学
大阪成蹊短期大学
大阪成蹊女子高等学校
こみち幼稚園



国連本部



本学での講義



国連記者会見

吉川元偉客員教授プロフィール: 1974年外務省入省。スペイン大使、初代アフガニスタン・パキスタン支援担当大使、経済協力開発機構(OECD)日本政府代表部大使、国際連合日本政府代表部大使・常駐代表などを歴任。国連大使在任時(2016年)には、日本政府を代表してパリ協定(気候変動に対応するための国際的な取り決め)に署名。2016年外務省を退官し、翌年より国際基督教大学特別招聘教授。2021年より大阪成蹊大学客員教授。

大学生の印象

全国各地の大学で講義をすることがあります。こちらから質問しても、人前で意見を述べることがなかなかできない学生が多いです。「出る杭」になるのが嫌なのでしょうか。しかしながら後日授業の感想レポートを読むと、よく考えた意見が書かれているものが多く、驚くことがあります。大阪成蹊大学でも同じような経験があります。

社会に出た時、自分の意見をきちんと言えることが大切です。少なくとも意見を聞かれたら答えられるようにしたいですね。

これを改善するのは、学生だけに求めても十分ではなく、教師の側でも工夫できることがあると思います。コロナ禍の中、大阪成蹊大学でもオンライン授業を実施しました。その経験を活かしオンラインと対面授業を併用するハイブリッド授業が今回の授業(特別リレー講義)で行われています。初回にオンデマンド授業でじっくりと考えてもらい、次の対面授業でグループ討議・発表を行っています。これは、学生が意見をもち、それを積極的に述べるための良

いやり方だと思います。大阪成蹊大学では、アクティブラーニングの推進や様々な発表の機会を設けていると伺っています。それらの取り組みも、自らの言葉で意見を発信するトレーニングとして非常に有効だと思います。

「意見を持つ」ことの大切さ

外国で暮らしてみても、日本人は、「正直」「勤勉」な一方、「おとなしい」「意見を言わない」という印象を持たれていると思います。これは最初にお話した日本の大学生に対する印象にも似ています。

いろいろな国の人が集まって議論している中、黙っていると、その人は自分の考えのない人、その場に居なくても困らない人と見られる可能性が大きいです。日本の総理大臣で、世界で記憶されている方は残念ですが多くありません。名前を覚えていらっしゃる方々は、いずれも自分のはっきりした意見を発信された政治家です。

自分の意見や主張のごり押しはだめですが、多くの人が納得する意見を言える日本人がたくさん出てくれば、日本人のイメージが、「正

大阪成蹊大学

元国連大使からの学生へのメッセージ

大阪成蹊大学 国際観光学部 吉川元偉客員教授

直「勤勉」に加えて「良い意見を持っている」に変わっていくでしょう。そうなれば非常にいいですね。

紛争の絶えない世界と日本の立場

今2つの戦争が起きています。ウクライナと中東のガザですが、自分たちには関係ないと思っている人が多数ではないでしょうか。日本が戦争をしなければ、少なくとも日本は平和で豊かな生活をする事ができると思っていますからでしょう。でも現実には違います。

2022年の2月から続いているロシア・ウクライナ戦争でロシアが勝つかも知れません。そうなれば、国連安保理の常任理事国という平和を守る大きな責任を担っているはずの国が、明白な国際法違反の武力侵略をして隣国の領土を略奪することになります。そのような状況を日本にあてはめると、ロシアにより武力で略奪された北方領土が戻ってくることは考えられません。同じく常任理事国の中国は、ロシアの軍事行動を非難していません。ロシアがウクライナ戦争に勝つと、中国は、台湾に進攻してもアメリカ含めどの国も介入しないだろうと考える可能性があるでしょう。そうなれば日本の領土も脅かされるリスクが出てきます。ウクライナを助け、ロシアが勝たないように行動することは、日本の利益でもあるのです。

昨年の10月以来中東では、パレスチナのハマスという非政府組織がイスラエルを武力攻撃して多くの人が殺害され人質に取られていました。これに対しイスラエルが報復攻撃をし、大きな戦争になっています。日本がどう対応するかを世界は見ています。日本の同盟国であるアメリカは、イスラエルの行動を支持しています。日本が90%の石油を輸入しているアラブ諸国はパレスチナを支持していますので、その立場に賛同するとアメリカとの関係がぎくしゃくするかも知れません。同時に、ガザで起きている人道の惨状は止めないとはいけませんから、イスラエルに注文をつけないといけ

ません。このかじ取りは非常に難しいです。我々市民も日本の置かれている立場を理解して、世界の紛争を見る必要があると思います。

あなたは何がしたいのか

「あなたは何がしたいのか?」「大学で学んでいるのは何のためか?」を自分自身に問うことが必要です。できれば高校生の時に、遅くとも大学生の間に、自分が将来やりたいことをしっかり考えれば、次はそれを達成するためにどう筋道があるのかを探ることになり、具体的にやるべきことが見えてきます。やりたいことが明らかになると、あとは強い決意をもって実行するだけです。

世界はすでにグローバルになっています。どんな仕事についても世界との関係があります。英語を話せることはとても大事です。実際に海外に出かけて行き、世界の実相を知ることも大切です。それもアメリカやヨーロッパといった先進地域ではなく、日本の隣国であるアジアを知ることが大切だと思います。この点に関しての一例ですが、外務省には「在外公館派遣員※」という制度があり、大学在学中(大学卒業生も応募可能)の2年間、世界各地の大使館・総領事館に派遣されて、空港での来客の接遇をはじめとする多くの貴重な経験を積みます。報酬・家賃が支給されます。派遣員終了後の進路を見ると幅広い分野に就職しています。外務省に採用された人もいます。大阪成蹊大学の学生諸君も挑戦してみたいかでしょうか。

※在外公館派遣員制度について
各国の日本国在外公館(大使館、総領事館等)に民間人材を派遣し、語学力を生かして主に後方支援的な業務に従事してもらう制度。外務省の委託を受けて一般社団法人国際交流サービス協会が、年間2回(前期:5月上旬、後期:10月上旬)の募集を実施しています。(一般社団法人国際交流サービス協会のホームページはこちら https://www.ihcsa.or.jp/)

大阪成蹊学園

大阪成蹊学園の飛躍
-挑戦し学び続ける-

大阪成蹊学園 専務理事 北本 暢

2023(令和5)年8月、学校法人大阪成蹊学園の専務理事に着任いたしました北本でございます。着任以来、多くの学生・生徒・園児の皆さんの学びと成長、職員の業務改革への取組み、教員の教育・研究の実践を身近に拝見し、大きな確信を得ました。それは、石井理事長・総長が提唱し推進された「学園の Paradigm 改革と教学改革」による成果が「教育・研究の優位性」となり、多くの関係者のお力で有機的に融合して、新たなステージで大きな可能性を生み出していることでした。

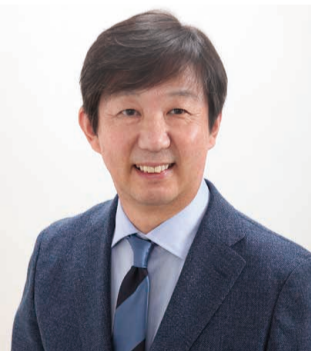
私たちの学園は、1933(昭和8)年に高等成蹊女学校として設立され、90年の長い歴史を歩み続けてまいりました。現在では、約8,000名の学生・生徒・園児が在籍し二つの大学と大学院、短期大学、高等学校、幼稚園を有する総合学園として成長いたしました。特に2010(平成22)年以降、急速な少子化が進行する中において

も、積極的に学園の Paradigm 改革に挑まれて「財政基盤の再構築」と「学びの改革」を断行、他の学校法人に類を見ない素晴らしい躍進を遂げて、社会的にも高い評価を確立されました。多くの学校法人が厳しい経営環境に置かれる中でも、2023年(令和5年)4月、阪急京都線・相川駅前に新キャンパスを開設、看護学部とデータサイエンス学部の2学部を設置して6学部体制の総合大学として、常に改革の歩みをとめることなく進化を続けております。

私自身は、40年間にわたり日本の高等教育界で、大学行政、学校法人経営のゼネラリストとして、大学の開学、学部の開設、学校法人の分離・合併、大学の教学改革、法人の財政改革など、学校法人の運営においては、重要な意味を持つ任務・役割を務めてまいりました。職員として、教員として、そして経営の立場から多角的に高等教育に携わってきて、困難な課題に直面することも多く、その経験から培ったものは「挑戦し学び続ける精神」でした。どのような試練や困難においても「挑戦し学び続ける精神」を忘れず、誠実にひたむきに行動することで必ず道は拓けてまいります。まさに、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという、学園の行動指針である「忠恕」に通じるものであります。「人のため、社会のため、そし

てそれは自分自身のため」との思いから、学生・生徒・教職員の皆さんにも「忠恕」の精神を忘れずに、挑戦し学び続けていただきたい。そして「徳があり、人に慕われ、信頼される人」に成長されることを、心から願っております。

現在、少子化により日本の私立大学・短期大学は、半数以上が定員割れとなり、今後も加速度的に悪化していくとされています。ただ少子化は、突然の事象ではなく予測されていた事実であります。不断の努力・改善・改革を続けた学校法人のみが、歴史を刻み続けることでしょうか。私たちの大阪成蹊学園が更なる発展を遂げ、建学の精神「桃李不言下自成蹊」の実践のもと、歴史を超えて新たな学園の未来を創造するため、微力ながらその使命を精一杯果たしてまいります。何卒、宜しくお願い申し上げます。



第43号 学園広報誌

WAVE

- 2面 学部ニュース(データサイエンス学部、看護学部 ほか)
3面 学修成果の発表(大阪成蹊カップ ほか)
4面 海外研修・国際交流(海外スポーツビジネス調査 ほか)
5面 産官学連携(シンポジウム、新商品共同開発 ほか)

- 6面 卒業生インタビュー
7面 クラブ活動 TOPICS こみち幼稚園だより ほか
8面 第13回全国アート&デザインコンペティション ほか